

令和元年 10 月 23 日

研修会報告

文責：真山

日 時：令和元年 10 月 19 日（土）14：00～16：45

会 場：東北医科薬科大学医学部（福室キャンパス）第 1 教育研究棟中講義室

テーマ：宮臨技学術部遺伝子・染色体部門研修会

「遺伝子・染色体検査の実際～当院での運用方法について～」

内 容：講演 1 「仙台医療センターにおける遺伝子・染色体検査」

講師：国立病院機構仙台医療センター臨床検査科 真山 晃史技師

講演 2 「東北大学病院における遺伝子・染色体検査」

講師：東北大学病院病理部 青山 弥生技師

講演 3 「病理診断における遺伝子・染色体検査」

講師：東北大学病院病理部 副部長 渡辺 みか先生

生涯教育点数：20 点

参加者：会員 22 名、非会員 1 名 計 23 名

あいにくの天気の中、東北医科薬科大学医学部中講義室において遺伝子・染色体部門研修会を開催した。今回は「遺伝子・染色体検査の実際～当院での運用方法について～」をテーマにし、遺伝子・染色体検査を実際に行なっている技師や診断に用いている病理医を講師として呼び出した。

講演 1・2 では仙台医療センターと東北大学病院病理部における遺伝子・染色体検査について講演していただいた。写真を用いて遺伝子検査を行うのに必要な設備・環境について説明し、仙台医療センターで実際に行っている骨髄増殖性腫瘍に関する *JAK2/CALR/MPL* 遺伝子検査や *UGT1A1* 遺伝子多型検査、FFPE からの結核菌 PCR について症例を交えながら講演してもらった。また、東北大学病院病理部で行っている FISH 検査や肺癌 *EGFR* 遺伝子検査、HRM 法を利用した脳腫瘍 *IDH1/2* 遺伝子検査など、従来からある遺伝子・染色体検査や最新の遺伝子検査法について説明してもらい、遺伝子・染色体検査の奥深さを学ぶことができた。青山技師からの「ガイドラインに準拠した方法で病理標本を作製してほしい」というメッセージが、おそらく参加者に一番響いたと思われる。

講演 3 では、東北大学病院病理部副部長の渡部みか先生を講師として呼び出し、「病理診断における遺伝子・染色体検査」について講演していただいた。内容は渡辺先生の専門分野である脳腫瘍・軟部腫瘍をメインとした、遺伝子検査と surrogate marker についてであったが、分子診断が浸透している脳腫瘍・軟部腫瘍における遺伝子・染色体検査の重要性について学ぶことができた。また、遺伝子・染色体検査を行えない検査室でも、surrogate marker についてしっかり学ぶことである程度病理診断を確定できることから、免疫染色についても知識を身につける必要があると痛感した。

全体を通して、参加者があまり芳しくない結果となったが、参加者からのアンケート結果は良好なものであった。しかし、需要と供給のバランスが取れていない可能性があり、研修会の内容や宣伝など、今後へ向けて対策を練る必要があると考える。会員が参加したいと思えるような魅力的な研修会を企画できるよう、努力していきたい。